「炎環」年表

1号	1980（昭和55）年12月	『炎環』の前身である句会報『無門』第1号発行．石寒太第一句集『あるき神』刊行．
17号	1981（昭和56）年10月	『無門』が月刊の同人誌に．代表石寒太．編集長は染谷佳之子（21号まで）．
20号	1982（昭和57）年1月	自選作品集としての「炎環集」開始，石寒太も「炎環集」の一員．
22号	1982（昭和57）年4月	編集長に今井聖（96号まで）．
50号	1984（昭和59）年8月	『無門』を『Mumon』と表記変更．
58号	1985（昭和60）年4月	石寒太第二句集『炎環』刊行．
67号	1986（昭和61）年1月	石寒太・今井聖が「炎環集」の枠内から出て巻頭に．「加藤楸邨俳句鑑賞」（石寒太）開始（169号まで連載）
79号	1987（昭和62）年1月	「炎環往還」開始．
87号	1987（昭和62）年9月	第三種郵便物にて発送開始．
91号	1988（昭和63）年1月	結社誌『炎環』創刊．「炎環集」は自選集から主宰選に．同人（佐藤秋水・長谷川智弥子・今井聖）の自選集「梨花集」開始．同人選による「玲瓏集」開始（158号まで連載）．
97号	1988（昭和63）年7月	編集長に島田牙城（147号まで）．
106号	1989（平成1）年4月	主宰による初の同人推挙（丹間美智子・一ノ木文子・水上孤城・高橋公子・清水淑子・森美樹の6名が「炎環集」から「梨花集」へ）．
115号	1990（平成2）年1月	「写俳　写真によるイメージ俳句」開始（217号まで連載）．
126号	1990（平成2）年12月	通常号のページ数が初めて48ページに達する．
143号	1992（平成4）年5月	「巻頭作家作品」開始．石寒太第三句集『翔』刊行．
148号	1992（平成4）年10月	編集長に丹沢亜郎（222号まで）．
149号	1992（平成4）年11月	毎日新聞社より『俳句αあるふぁ』創刊．
150号	1992（平成4）年12月	「五十句特別作品」開始（279号まで連載）．
157号	1993（平成5）年7月	「天網集」開始，「玲瓏集」は次の158号にて終了．
165号	1994（平成6）年3月	「俳誌を読む」開始（279号まで連載）．
168号	1994（平成6）年6月	「梨花集作家特別作品」（13句）開始（279号まで連載）．
199号	1997（平成9）年1月	「第1回炎環エッセイ賞」「第1回炎環新人賞」発表．
202号	1997（平成9）年4月	「ほむら通信」開始．
204号	1997（平成9）年6月	「発句転生」開始．
211号	1998（平成10）年1月	「第1回炎環賞」「第1回炎環評論賞」発表．
218号	1998（平成10）年8月	「新写俳　写真によりイメージ俳句」（競詠）開始（279号まで連載）．
223号	1999（平成13）年1月	編集長に島青櫻（279号まで）．
280号	2003（平成15）年10月	編集長に吉田悦花（390号まで）．「芭蕉に学ぶ　俳句入門」（主宰）開始（390号まで連載）．
289号	2004（平成16）年7月	投句葉書の大型化（これ以前は郵便はがき大）．
299号	2005（平成17）年5月	「私の好きな一句」開始．
320号	2007（平成19）年2月	石寒太第四句集『生還す』刊行．
322号	2007（平成19）年4月	「炎環集」の投句者が初めて200人を超す．
334号	2008（平成20）年4月	「玄々山房月録」（主宰）開始．
347号	2009（平成21）年5月	「私の名前」開始（389号まで連載）．
390号	2012（平成24）年12月	石寒太第五句集『以後』刊行．
391号	2013（平成25）年1月	編集長に丑山霞外．
392号	2013（平成25）年2月	「寒太独語」「秀句燦々」（主宰）開始．
394号	2013（平成25）年4月	「心語一如の交叉点」開始．
396号	2013（平成25）年6月	通常号のページ数が初めて96ページに達する．
403号	2014（平成26）年1月	「1000字エッセイ」開始．
405号	2014（平成26）年3月	「炎環集」の順位による配列を50位までに限定．
415号	2015（平成27）年1月	「今月号の難読漢字の読み方」開始．
431号	2016（平成28）年5月	「俳誌拝読」開始．
449号	2017（平成29）年11月	石寒太第六句集『風韻』刊行．
455号	2018（平成30）年5月	「句集を読む」開始．
500号	2022（令和4）年2月	通巻500号を迎える．